

# lead-off 本との出会いを楽しむ 第4回

## きっかけ

農学生命科学部准教授 柏木 明子



弘前大学の教職員の中で群を抜いて読書量が少ないであろう私が、「本との出会いを楽しむ」という原稿執筆を引き受けてしまった！としばしの後悔の後、今までに読んだ数少ない本の記憶を辿り、多田富雄先生の「免疫の意味論」のことを思い出した。大学入学後、大学の講義に全く興味を持たず消去法で選んだ研究室に入って1年がたった頃、「免疫の意味論」の輪読をしようと声をかけてもらった。週に1回輪読の日が来るため否応なしに読み始めた。私が所属していた学科は微生物の応用が専門でヒトの免疫というものに対してはほとんど知識を持たないまま読み進めた。理解したつもりでいても輪読の日に出てくる指導教員からの「問い」に対し「そんなこと考えてもいなかったです。」という感想が真っ先に出るわ、きちんとした議論に持ち込めないわ、という状態に「何も考えていない自分」にこの頃初めて出くわしたのかもしれない。このような状況の中においても、本の中に書かれている「自己と非自己」について読み進め、それらの違いは

何か？ということについて議論となった。考えながら色々と列挙してみると、その枠組みの中からはみ出してしまう例を同時に思いついてしまう！ということに気づいた。また同じころ「生物と非生物」との違いは何か？ということも考える機会もあったが、同様に枠組みの中からはみ出してしまう例を思いついてしまうという事に遭遇した。その頃まではあまり考えたこともなかったが、考えてみれば、「自己と非自己」や「生物と非生物」の違いというものを感覚的には捉えているつもりではあったが、いざ羅列してみると明確に書ききれなかった。しかし、我々は何が「自己」で何が「非自己」か、とか何が「生物」で何が「非生物」か、を感じてはいるのではないかということにも気づいた。羅列しようとしたことがそもそも間違いなのか。。。これらをどういう風に記述すればよいのだろうか。。。等とこの頃から考え始め、未だにはっきりとした答えを見いだせないままである。

(かしわぎ あきこ)



柏木先生が紹介された、多田富雄著『免疫の意味論』を本館及び医学部分館で複数冊所蔵しています。

所 在: 本館2階開架書架 他

請求記号: 491.8/Ta16

図 書 ID: 06615914